

令和 8 年度の学校評価

本年度の 重点目標	① 一人一人の実態に応じた学びを支える教育活動の質の向上 ～ICT の効果的活用と学部間の系統性を重視して～ ② 障害特性に応じた安全・安心な学校生活を支える体制づくりの充実 ～日常の安心感と緊急時対応の両立を目指して～ ③ 教育の意図と成果が伝わる学校づくり ～保護者と学びを共有する発信の充実		
項目 (担当)	重 点 目 標	具 体 的 な 方 策	留 意 事 項
小学部	・児童の実態に応じた目標設定と支援を基に、「分かった!」「できた!」を引き出す授業づくりを進め、主体的に学ぶ力を育成する。 ・連絡帳や懇談会等での情報共有を充実させ、授業や行事のねらいと成果が保護者に「見える」「伝わる」発信を通年で継続する。	・教育的アセスメントに基づき、個別の指導計画等の目標と手立てを明確にし、授業実践を通して評価・改善のサイクルを回す。 ・児童の主体性を高めるため、活動の選択肢を用意したり役割を設定したりするなど、関わり方を工夫し、保護者を含め情報を共有する。 ・連絡帳、電話連絡、懇談会等を通して、学校生活の様子や成長を丁寧に伝え、家庭と目標や支援方法の共通理解を図る。 ・ホームページ等での情報発信を計画的に行い、行事や学習の事前学習・振り返りが家庭でも活用できるよう、写真・資料等を整理して掲載する。	・児童の特性に応じて、言葉かけや支援の量、タイミング、環境の調整を工夫し、安心して過ごすことができるように丁寧な対応を心掛ける。 ・保護者との共通理解を大切にし、相談があった際は学年・学部で連携して迅速に対応する。 ・情報発信が学期末に集中しないように年間の掲載スケジュールを立て、継続的に更新できる体制を整える。 ・個人情報に十分配慮し、写真や成果物等を発信する場合は、担任や学年職員、部主事等で確認するなど、校内の確認手順を徹底する。
中学部	生徒一人一人の特性を重視し、それぞれに合った指導・支援を行う。 ・家庭との連携を深め、開かれた学校の観点から、教育の意図や成長の記録を発信する。	・生徒の実態に応じて柔軟に職員を配置し、教育の保証と適切な支援、安全の確保を実現する。 ・中学部会、学年会等を通じて、短時間の研修機会を設け、特別支援教育に対するスキルアップを図る。 ・普段の学習の様子を教育の目標や成長の記録と共に本校ホームページやまちこみメールにアップする。	・生徒それぞれの認知特性、コミュニケーション、行動特性、生活習慣等を継続的にアセスメントし、個別の指導計画・教育支援計画を基に指導・支援を行う。 ・学習の見通しがもてるよう、授業の流れを視覚化（予定表、タイムタイマー等）する。 ・課題はスモールステップ化し、達成基準を明確化して即時に称賛し成功体験を積み上げる。 ・ICT を活用して「わかる」場面を増やす。 ・行動面の課題には、背景要因を整理して支援を統一する。（肯定的行動支援、代替行動の指導、クールダウン場所の設定等） ・上記の支援方法を職員で話し合い、生徒が安心して過ごせる方法を部内で共通理解する。 ・連絡帳、個別懇談、ケース会議等を通して家庭・関係機関と目標と支援方法を共有し、定期的に指導の効果を振り返って計画を更新する。 ・生徒のプライバシーを最大限に配慮し、特に個人情報の写真流出には十分注意し、学年主任、教務主任、部主事まで確認する。 ・活動自体に注目するのではなく、教育的な意義を発信する。
高等部	・良き社会人として生活する力を身につけ、健康な心と体で責任をもって行動できる子を育てる。	・コース別の支援などを通して卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。	・日頃から、個々の指導目標等を明確にし、卒業後の生活に結び付けられるよう配慮する。また、生徒への言葉かけや支援について、一人一人のペース、家庭環境、思い等に寄り添い、丁

	・卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力を伸ばす。	・生徒一人一人の対応について学年及び部、家庭の間で共通理解を図りながら支援を進める。また、課題や支援方法を学校、家庭、関係諸機関とで共有することを通して実態や特性に応じた生徒指導、進路指導の充実を図る。 ・様々なたよりやHPを活用して情報発信をしていくと同時に、ICT機器の活用方法について職員間で情報共有するなど、さらに高め合っていけるようにする。	・必要に応じて支援者会議等を開催することで、学校、家庭や関係諸機関等が生徒の目標を共有したり、共に成長を喜び、課題に取り組んだりしていけるような支援を目指す。 ・学校、地域、関係諸機関等のそれぞれの役割分担を明確にし、支援の幅を広げ、しっかりと連携をする。 ・卒業後の進路を見据えつつ、生徒一人一人が、「楽しい」と思える授業の工夫し、授業の質の向上を目指す。また、学校生活の様子や支援方法について、懇談会や連絡帳等で共通理解を図る。
総務	・保護者や外部に配信される文書について、個人情報に十分に配慮しながら、形式を最適化していく。 ・駐車場や更衣ロッカー、職員の机などの管理を適切に行い、職場環境を整える。	・個人情報について毎回必ず複数の目で確認する。 ・スマートフォンやタブレット端末などで閲覧することを想定し、形式や内容を検討する。 ・管理している机やいす、ロッカー等を再点検するとともに、職員や来校者が安全に駐車できる駐車場計画を運営していく。	・アンケートに則って写真や名前の掲載を確認するとともに、学年等で確認を行う。 ・保護者や職員に必要な情報を精選し、簡略化できるようにする。 ・校舎改修工事に伴い駐車スペースが限定されるため、新たな駐車場案を作成し、安全に運営する。
教務	・個々に合わせた指導・支援ができる環境を整える。 ・諸帳簿等の手引きを改善し、分かりやすく使いやすい資料を作成する。 ・次期学習指導要領の改訂に向けた教育課程の見直しができるようにする。	・個別の教育支援計画や個別の指導計画を継続的に見直し、指導・支援内容の系統性や児童生徒一人一人の実態に応じた合理的配慮（教材、指導・支援内容、提示方法等）を意識した教育活動が行えるようにする。 ・現行のマニュアルを見直し、職員から意見を集約しながら新しい資料づくりを行う。 ・知りえた情報を職員へ周知をしながら現行の教育課程と比較したり、教科領域会などでの情報を共有したりする。	・各部で段階ごとに引き継ぐ資料や外部の機関との継続的な支援につながるように、見やすく、分かりやすい様式作成を行っていく。 ・教材や指導・支援の在り方については、児童生徒一人一人の困り感や強みを踏まえた工夫をすることを意識できるようにする。 ・多くの職員から意見を集約したり、部会等で周知したりしながら改善をし、職員が使いやすい諸帳簿に変えることで業務の効率化を図る。 ・公式情報に基づいて正確に発信することや校内の状況に応じて段階的に共有することなど工夫をする。
自立活動	・本校オリジナルの自立活動チェックシートの作成 ・外部専門家活用事業を通して職員の専門性の向上を目指す。 ・自立活動室の管理・運営 ・ホームページへの掲載	・設問の傾斜やチェック項目数、指導要領との関連を確認し、完成させる。 ・外部専門家と各担任とにやり取りのツールを工夫し、より充実した事業にする。 ・全校職員に向けた全体研修を実施する。 ・より使いやすくなるため、物品の管理方法を工夫したり、物品の状態を定期的に確認したりする。 ・本校で使用している教材・教具や指導の具体的な方法を紹介する。	・教務部とも協議していく。ある程度形になったものを全校職員で試行する。アンケートを実施し、改善点を確認しながら完成を目指す。 ・専門家の先生の御意見を伺いながら、負担のないような書式を作成する。 ・事前に全校職員から質問を募り、専門家の先生に答えていただく形の研修にする。 ・種類ごとに分けて収納する。貸し出しや返却がしやすくなるよう、表示を工夫する。 ・分掌会の時間に分掌職員で教材・教具の点検を行う。 ・教材ライブラリーのデータを活用する。

教育支援	・特別支援学校のセンタ－的機能を発揮し、地域支援を推進する。 ・校内支援として、児童生徒の相談支援の充実を図る。	・小中学校への相談活動では、各校のニーズを把握し、実態に応じた支援方法の提案や情報提供を行う。 ・各校の特別支援教育コーディネーターと協働して課題を解決できるよう検討しながら進める。 ・「はあと相談」では、効果的で適切な支援方法について相談を実施する。場合によっては、地域の関係機関と連携する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを有効活用し、連携・協力のもと児童生徒、職員への相談活動を行う。 ・必要な児童生徒に支援会議を提案・実施し、関係機関と連携して支援方法を検討する。	・相談内容に応じて、本校の取組や教材を紹介できるよう事前に準備をする。 ・巡回相談等の記録用紙の改善、簡略化を行い、より使いやすく活用できるようにする。 ・必要に応じて、継続・定期的な相談支援を行っていく。 ・相談支援の記録や資料等、関係分掌や学部、学年で情報共有する。
研 修	・職員一人ひとりが主体的に研修・研究へ参加し、その成果を組織全体で共有・活用する体制を強化することで、授業改善と支援の質を継続的に高める。	・職員のニーズを踏まえた研修内容の充実を図り、年間を通した研修計画を整える。 ・校外研修やオンライン研修の情報をより迅速に提供し、研修参加への選択肢を広げられるようにする。 ・全校研究「分かった！を引き出すための支援の在り方」をより深め、見通し→行動→振り返り改善のサイクルを確立する。 ・ホームページを活用し、職員研修の様子などを外部に向けて発信する。	・丁寧にアンケートを実施し、よりニーズの応じた研修を設定できるようにする。 ・情報提供は適宜グループウェアや掲示等で複数経路により行い、見落としを防ぐと共に締め切り・対象者・ねらいなどを明記して共有する。 ・授業参観観点シートを活用することで、参観の観点を明確化したり、参観者の増加を促す提示の仕方を工夫したりして、研究をより活発に進められるようにする。 ・定期的な情報発信を行うことで、職員研鑽の様子を広く周知できるようにする。
図 書	・本を探し易く、使い易い図書室環境を整備する。 ・児童生徒が本と出会うきっかけを増やせるような取組を行う。 ・本を利用した授業を支援する。	・見出しや配架方法の改善を図り、本が取り出しやすいようにする。 ・テーマに沿った本の展示や体験的な要素を含む図書室行事を企画する。 ・図書室だよりを利用して取組紹介を行ったり、図書室利用教室で地域の図書館紹介を行ったりする。 ・地域の図書館と連携し、よい本を児童生徒が手に取れる機会を作る。 ・蔵書紹介、読書教材の作成、自作授業教材の収集・紹介・貸出を継続し、グループウェア等で周知する。	・明るく清潔な雰囲気作りと、見出しの読み易さ、本の出し入れのし易い本棚となるように冊数等に留意する。 ・児童生徒の実態や人権、時事を考慮し、誰もが楽しめる内容を工夫する。 ・個人情報や著作権に留意する。 ・読むことに困難のある児童生徒がより本に親しめるような授業の支援のため、情報収集・情報提供に心掛ける。
情報教育	・ICTを使った取組や効果が職員間で共有できる仕組みづくりを行う。 ・ICTを安心して使えるための校内運用規定を整理する。 ・より学びが伝わるホームページづくりを行う。	・校内のICT活用のばらつきを縮めるために、データベースを運用しやすいかたちに整理する。 ・ICT機器の運用についてのルールや手順を整備する。 ・閲覧導線や、より学びが伝わる方法を検討することで、ホームページの発信力の向上を図る。	・共有形式・保管場所・検索性を整え、目的に応じて職員がより利用しやすいかたちにデータベースの構築・整備・運用を行う。 ・ICT機器を利用するときに迷わず動けるよう、運用手順やルールについて、周知や具体的な手順の作成を行う。 ・各部や校務分掌と連携を図りながら、掲載内容の編集・テンプレート提供・掲載導線の設計等を行う。

生徒指導	・スクールバスの運行経路、バス停等の見直しを行う。 ・緊急時の対応について周知を行う。 ・本校の防災や防犯対策の取組を保護者等へ分かりやすく発信する。	・各バス停における利用人数を把握し、バス停の新設や変更、バス経路の見直しを行う。 ・緊急時における保護者への引き渡しについてマニュアルを基に周知する。 ・緊急時を想定した訓練を実施する。 ・引き渡しを行う際の体制を職員間で共有するためのシミュレーションを行う。 ・防災や防犯に対する取組についてホームページで発信する際、ねらいや児童生徒がどんな様子であったか具体的に記載する。	・変更する場合、安全確認やダイヤの計測等を行い、事前に保護者と変更に関する情報の共有を行う。 ・マニュアルの配布を行うとともに懇談会の機会を活用し、保護者へ説明を行うよう留意する。 ・訓練の実施方法について、変更点等を予め保護者に説明する。 ・ホームページへ掲載を行った際、マチコミメールで更新した旨を知らせ、多くの保護者にホームページを見てもらえるようにする。
保 健	・体育的な活動の見直しを図る。 ・給食に関する情報提供の充実を図る。 ・全校で安全管理や環境美化に努める。	・運動会や水泳などの実施内容を見直し、教育活動の充実と業務改善を図る。 ・給食や食に関する取組について、計画的に情報提供を行う。 ・清掃活動や安全点検を通して、学校環境の維持・向上を図る。	・昨年度の課題や新学習指導要領の内容から精査し実施内容の検討を図る。 ・給食内容や食育の取組について、分かりやすい形での情報提供を工夫する。 ・校内の危険箇所や清掃状況を定期的に確認し、早期対応や共通理解が図れるよう連携を大切にする。
進路指導	・本校のキャリア教育の取り組みや成果をホームページや進路だよりで発信し、保護者に情報提供する。 ・保護者や職員を対象に研修会を行い、生徒の卒業後の生活や求められる力について知る機会を作る。	・ホームページの掲載内容を年度の初めに保護者や職員に知らせるとともに、説明会などで一緒に閲覧する機会を作る。 ・各部のキャリア教育の目的や取り組みの様子を進路だよりとしてマチコミメールで配信する。 ・テーマを複数設定し、それぞれが関心のある内容で研修できるようにする。	・ホームページの内容は、適宜更新するとともに、更新した際は、マチコミメール等で保護者に伝える。 ・進路だよりは、キャリア教育の取り組みごとに分けて配信する。また、取り組みの目的や生徒の様子を分かりやすく簡潔にまとめる。 ・研修部と連携を取り、多くの人が参加しやすいように、夏季休業中に設定する。また、外部の関係機関と連携して内容を充実させる。
学校関係者評価を実施する 主 な 評 価 の 視 点		①－１ ＩＣＴ活用が児童生徒の「わかる・できる」につながっているか。 ①－２ 教員間で指導の共通理解が進んでいるか。 ②－１ 教職員が同じ基準で安全対応できているか。 ②－２ 保護者が学校の安全体制を理解し、安心感をもっているか。 ③－１ 保護者が学校の取組を具体的にイメージできているか。 ③－２ 学校への理解・信頼感が高まっているか。	